

国語授業力向上の参考に

三好さん(福井大名誉教授)が著書



「小学校の先生の参考になれば」と話す三好さん(左)とイラストを担当した吉田さん(福井市の福井大文京キャンパス)

小学校の定番教材5点例に

福井大名誉教授で越前市武生公会堂記念館館長の三好修一郎さん(67)が「文学教材を深く読むための国語授業デザイン」3ステップで主体的・対話的な学びを実現する「(明治図書)を刊行した。小学校の国語教科書に掲載されている定番の物語5点を取り上げ、教材研究の方法や児童がワクワクするような授業の在り方を示している。

三好さんは国語科教育が専門。教員の授業力向上の一助にしてみらおうと執筆した。「ちいちゃんのかげおくり」「ごんぎつね」「お手紙」「白いぼうし」「やまなし」の5教材について、物語の世界観や単元の目標の立て方、授業づくりの過程を紹介した。

戦争の悲惨さを訴えた「ちいちゃんのかげおくり」では、終盤で「小さな女の子の命が、空にぎえました」と書かれている



新刊「文学教材を深く読むための国語授業デザイン」

点に着目した。「かけがえのないちいちゃん」の死が、大勢の死の一つでしかなくなり、忘れられてしまった」という戦争の現実はまだ「読み」を深めるべきではないかと提案。さらに「ちいちゃんはお墓を作ってもらい、みんなに拜んでもらえたのか」を話し合うことで奥行きある授業につながるとしている。

「ごんぎつね」では、登場人物の「ごん」「兵十」の心情を理解するため演劇的手法を紹介。教室の中に「ごん」「兵十」の居場所である「森のあな」や「いご」を段ボールで作り、役になりきって話し合い活動をするなどで、児童の興味と意欲を継続させることができるとしている。

三好さんは、児童の「深い学び」のためには教員自身の「教材の深い読み」が不可欠とし「定番教材でも細部にこだわり、頭をひねることで新しい世界が広がる。言葉や表現に対するしつこさを持って教材研究に力を注いでほしい」と話している。文章に添えたイラストは、福井大学院教育学研究科の吉田有里佳さん(24)が担当した。本書は2376円。(宇野和宏)